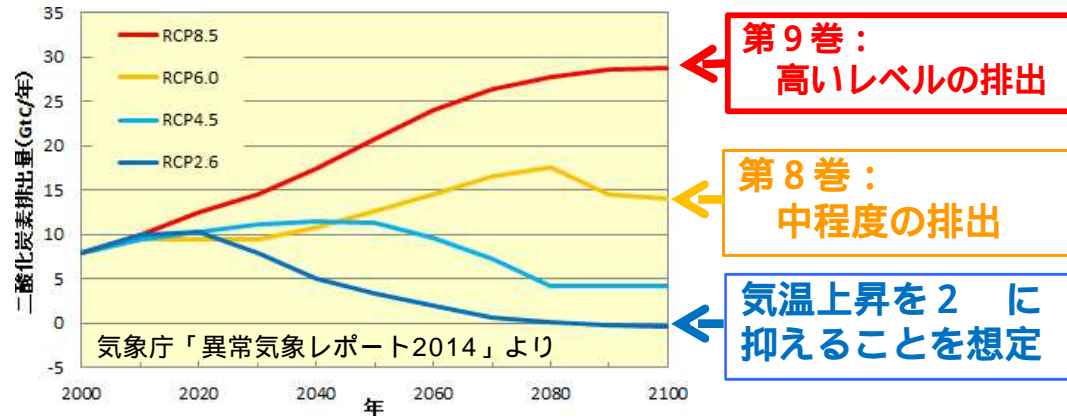


## 21世紀末の気候の予測について



二酸化炭素など温室効果ガスの排出削減対策が今後ほとんど進まず、地球温暖化が最も進行する場合を想定して21世紀末の日本の気候を予測した結果を掲載しています。

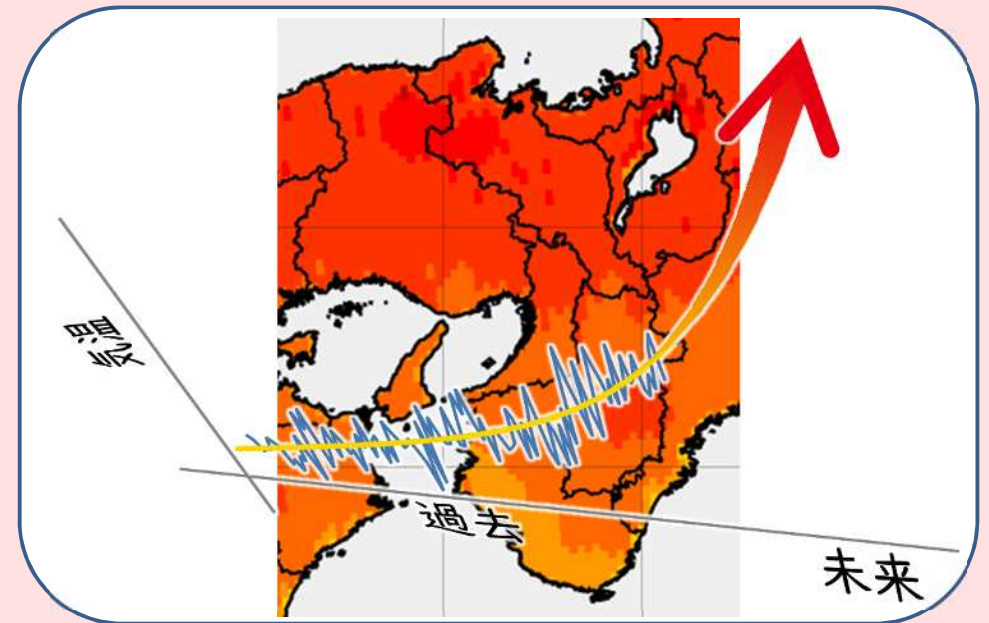
予測に際しては、国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が2013年に公表した第5次評価報告書で採用した4つの温室効果ガス排出シナリオの中で最も排出量の多い「RCP8.5シナリオ」(図中の赤線)に基づいて、気候予測モデルを用いたコンピュータシミュレーションを実施しました。

### 将来気候・現在気候・平年値について

将来気候	気候予測モデルによる21世紀末(2076~2095年)における気候の予測結果です。
現在気候	気候予測モデルが再現した20世紀末(1980~1999年)の気候です。
平年値	1981~2010年までの平均値で、観測に基づく値です。

## 大阪府の21世紀末の気候

地球温暖化が最も進行する場合の  
気温や降水の予測



大阪府の気候変動に関する情報(大阪府版)

<https://www.jma-net.go.jp/osaka/kikou/ondanka/ondanka.html>

地球温暖化予測情報第9巻(全国版)

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/GWP/index.html>



(二次元コード)

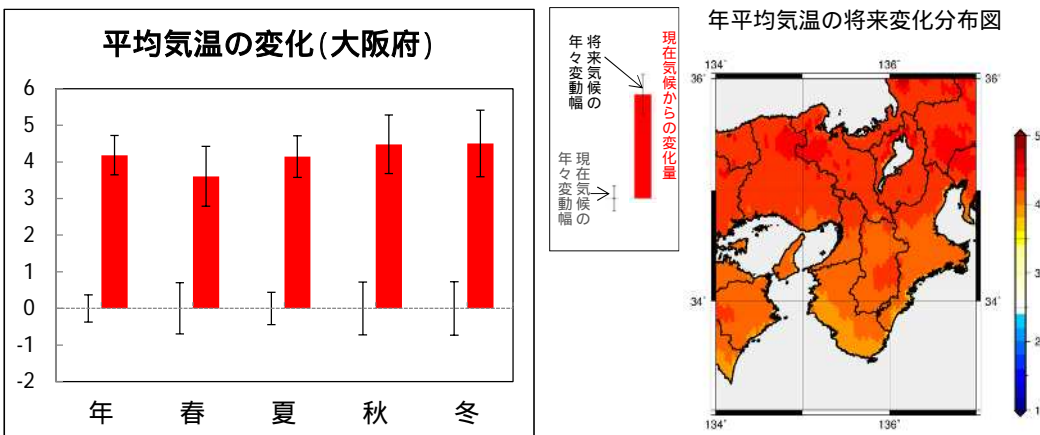
大阪管区气象台

地球温暖化が最も進行する場合の

# 気温の予測

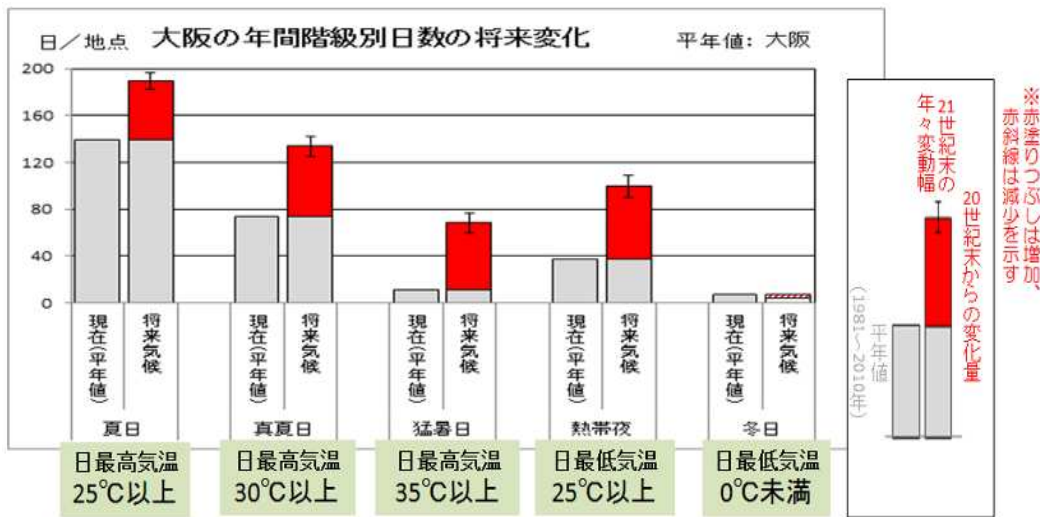
▷大阪府では年平均気温が100年で約4 上昇

大阪ではすでに年平均気温が100年あたり2.0 上昇しています(計算期間:1883~2017年)



大阪の年平均気温は現在の種子島(鹿児島県)より高くなります。  
現在の年平均気温の平年値 大阪:16.9 種子島:19.6

▷大阪では猛暑日が100年で年間55日程度増加

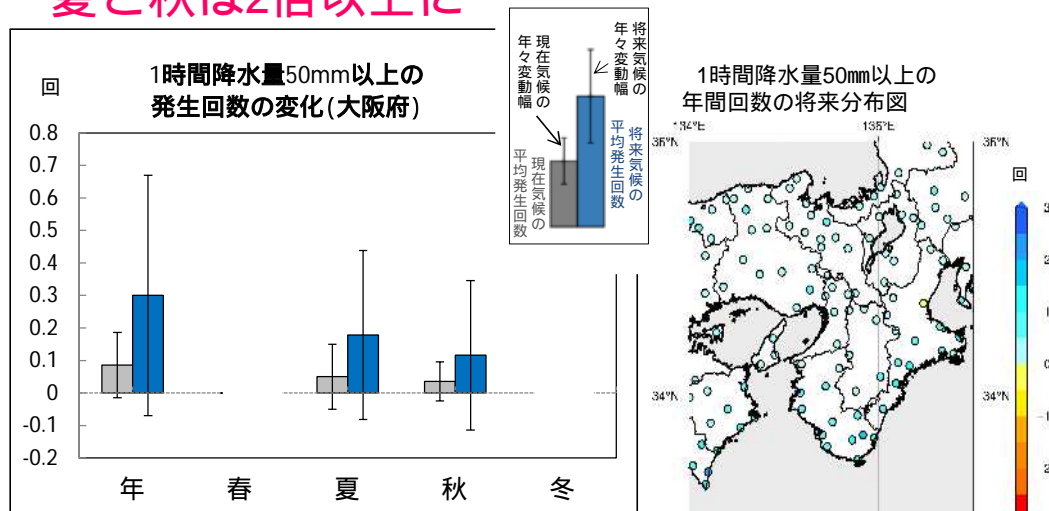


夏日・真夏日・熱帯夜はいずれも50日以上 増加します。

地球温暖化が最も進行する場合の

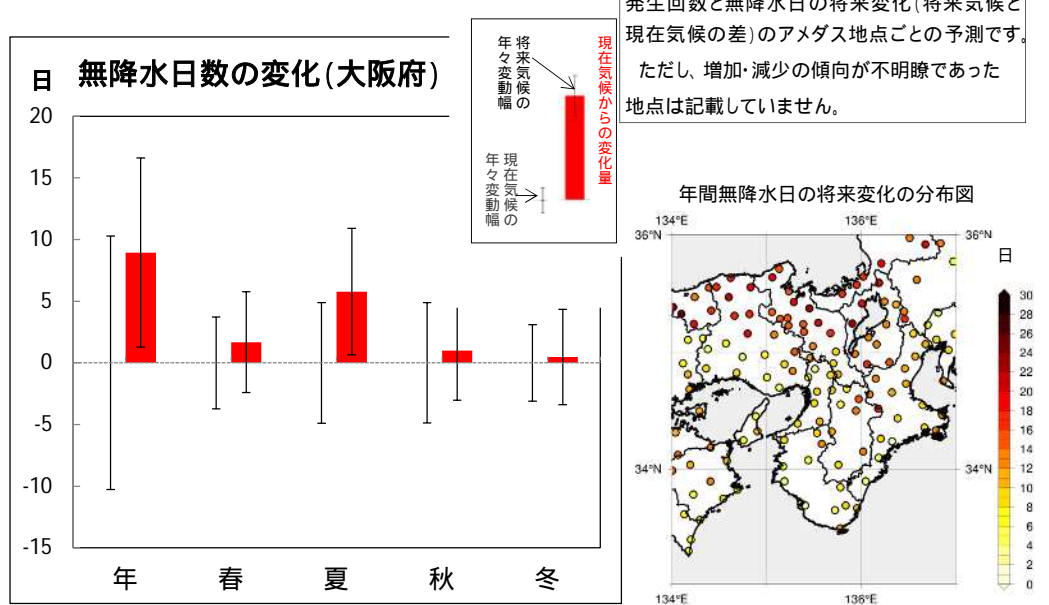
# 雨の予測

▷1時間降水量50mm以上の発生回数が100年で夏と秋は2倍以上に



春は現在気候で発生が無く、また、将来気候においてほとんど発生が予測されていないため、冬は発生回数が少ないため表示していません。

▷無降水日数も増加



上下の図は、年間の1時間降水量50mm以上の発生回数と無降水日の将来変化(将来気候と現在気候の差)のメダス地点ごとの予測です。ただし、増加・減少の傾向が不明瞭であった地点は記載していません。

<注意> 分布図については、地点別の変化傾向に着目せず、府の平均的な変化傾向を捉えるようにしてください。